「スマート農業の死角」を読んで。

現在の農村地域には、情報通信技術の基盤が完璧に整備されていないため、スマート農業の恩恵を農業従事者全員が受けられないことが大きな問題だと知った。現在 docomo 回線では、地方の農村地域までカバーできている分があるが完全ではない。そのため、今政府が行うべきなのは「スマート化」の推進ではなくスマート農業をすべての農家さんが行えるようにするための基盤づくりだと思った。また、記事でも触れられていたが、農業の「スマート化」に対して、実際の農家さんには具体的なに何ができるか、そして将来の展望が不明瞭な部分あることが問題だと感じた。　飯田先生の「スマート農業概論」で、農家さんに対する、スマート農業に興味があるかというアンケート結果について知る機会があったが、多くの農家さんがとても関心をもっているということを知った。そのため、全国の農家さんに「スマート農業」についての具体的な情報を知ってもらうべきだと感じた。

資料を読んで意外だったのは、農業に関するビックデータに対して権利の問題があることだ。民間企業のビジネス化が狙えるチャンスだとあったが、個人的には、最初はデータが国管理で行われていたほうが、農家の懐にも優しいと思うし安心できるのではないかと考えた。国管理であることにどのような問題があるのかとても気になった。

「農業農村工学分野の ICT 研究を始めるヒント」を読んで。

自身の研究を ICT・IOT・AI と結びつけるための 5 つの改革を見て、今の時代を考えると全くそのとおりであると感じた。特に四番目（基礎の勉強が大切）の改革については、今の自分にも必要な改革であると思った。現在 AI 技術がものすごく発展しており、将来自分たちが AI を駆使して働いていく時代になると考えると、その AI がどのような原理で動いているのかについて知っておかないと、いざ AI により提示されたデータを見たときに、正しく判断することができないと思う。今実際に、word や excel を使っていても、全く使いこなせていないので、「スマート化」について議論する以前に自分自身全然スマート化して

いないなと感じてしまった。資料では「最も重要なのは今そこを通る情報をいかに活用するか」とあり、やはり、基礎を学び原理を知っておくことではじめて、正しく情報を判断したり使うことができるようになるのだと思った。